

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着きをみせていたこともあって、県をまたぐ旅行の予約、問合せが著しく増加する傾向にあった。都市部への旅行に関しては大型レジャー施設を除けば低調だが、地方への旅行が需要全体を押し上げている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ウィズコロナの考えが浸透していることで街の人出が増えている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比で303.6%、前々年比で403.2%、新型コロナウイルス発生前の2019年比で60.7%となっている。2019年との比較では初めて60%を超えることができた。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・月を追うごとに売上が増加している。7月の売上は新型コロナウイルス発生前の2019年との比較で70%台まで回復しており、回復の兆しが見られる。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・夏休みに入り、旅行者が目に見えて増えている。新型コロナウイルス新規感染者数は増加しているが、来客数は以前の水準に戻りつつある。
	○	百貨店（営業販売促進担当）	単価の動き	・衣料品が好調に推移していることから、客単価が上昇している。ただ、直近の新型コロナウイルスの感染拡大が悪影響を及ぼし始めている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第6波が落ち着いたことで、ゴールデンウィーク以降の動きが好調であった。ただ、ここに来て第7波による新規感染者数が急増していることで7月中旬から客の動きが鈍くなり始めている。また、円安やウクライナ情勢の影響による物価高の影響も始めている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の急拡大により、外食を控えて自宅で食事する傾向が再びみられるようになっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・前年と比べると、観光客も含めて客の動きが活発であり、それが売上にも反映されている。新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているが、経済を回すために国の政策を十分理解した上で自社でできることを着実に実行することが求められている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・市況は余り変わらないが、天候や気温に左右される飲料、ビール、アイスなどの販売量の動きがプラスとなっており、前年並みの売上をどうにか維持できている。ただ、7月前半の天候は良かったが、後半の天候が崩れたため、後半の売上が落ちている。
	○	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・来客数が増えている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・マスクこそしているが、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限に対して、もう良いだろうという考えがあふれている。各地の人出も悪くない。当店の売上もようやく前年実績を超えそうだ。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているものの、行動制限が掛かっていないこともあって、来客数が増加している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・7月の3連休は新型コロナウイルス感染症発生前と遜色ない来客数であった。時間によっては待ち時間が発生するなど、にぎわいが戻ってきている。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・自治体が進める県民割などの恩恵が大きい。徐々に勢いはなくなっているものの、現在も当施設の稼働に大きく寄与している。
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・5月以降、新型コロナウイルスの感染対策を講じた上で経済を回していく方向にかじが切られたとみられる。6～7月の航空機利用は、ビジネス需要や生活需要がいち早く回復しており、観光需要もインバウンド以外は回復基調にある。	
○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4～5月は新型コロナウイルス感染拡大の影響でどん底であった。現在は新規感染者数こそ増えているものの、行動制限が少ないことから、経済活動を再開する動きが強まっている。	

○	タクシー運転手	販売量の動き	・人の動きが活発になっており、そのことが営業収入に結び付いている。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、夜間の客足が鈍っている。
○	タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きが少し良くなっている。
○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前には1日平均1000人以下だった利用客が、7月は3000人を超える日が多くなっている。国内観光客の入込は、間違いなく新型コロナウイルス発生前の水準に近づいている。あとはインバウンドが回復すればというところまで来ている。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光シーズンであることから輸送量が増加している。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出始めており、一時期と比べると期待値が下がっている。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の日々の反応は変わっていない。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月上旬には来街者数が回復する兆しがみえ始めたが、中旬以降は新型コロナウイルスの感染拡大に伴って来街者が激減した。観光客は元より地域住民の来街も少なくなっており、月全体としては悪い状態が継続している。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・出歩く人は動いており、景気は余り変わっていない。
□	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の前年比の推移をみると、4月が93%、5月が96%、6月が90%、7月が26日時点で94%となっており、余り変動がみられない一方で、買上客数の前年比は、4月が109%、5月が116%、6月が107%、7月が26日時点で107%と順調に推移している。ただ、7月中旬からの新型コロナウイルス新規感染者数の急増に伴い、来客数、買上者数のいずれも約10%落ち込んでおり、どちらの方向に進むか不透明になっている。
□	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・これまで自粛気味だった客の生活が活動的になっている。インフレ傾向や新型コロナウイルス感染症の第7波の拡大傾向などもみられるものの、行楽や外食が盛んになっている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数自体は減少しているが、1人当たりの購入金額や買上点数が増えていることで、どうにか売上を維持できている。ただ、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたため、今後の見通しについては厳しいものがある。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高止まりに加えて、新型コロナウイルス新規感染者数が急増していることもあって、販売量が芳しくない。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・7月半ばまでは緩やかながらも回復傾向にあったが、新型コロナウイルスの感染状況が悪化していることもあって、4～5日前から客の入込が落ち込み始めている。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・前月までは回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大がみられることで、旅行取消しの間合せが増えている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあることで、キャンセルが発生している。ただ、来客数全体としての変化は余りみられない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・一時期は客の動きが良くなっていたが、ここに来て新型コロナウイルスの感染が拡大していることで、急な落ち込みがみられる。今後の状況を注視することが求められている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者が再び増加しているが、第6波の時のような大幅な来客数の減少はみられない。売上も若干の減少で推移している。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・この3か月、売上に多少の変動はみられるが、来客数はほとんど変わっていない。
□	美容室（経営者）	単価の動き	・繁忙期に突入したが、全体的な景気は変わっていない。

□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・今のところ、分譲マンションのモデルルームへの来訪客の様子に大きな変化はみられない。商談も順調に行われている。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・イベントなども多少は開催できたことから、通行量が順調に増えており、店主にも安どの表情がみられたが、新型コロナウイルス新規感染者数が急激に増えていることをメディアが連日のように報道していることから、自粛の悪夢がよみがえるのではないかと心配している。実際に、酒を提供する店舗では団体予約のキャンセルが急増しており、経営者も肩を落としている。この雰囲気では各店の景気回復が遅れることになり、企業存続が本格的に危ぶまれる状況となることが懸念される。
▲	商店街 (代表者)	販売量の動き	・現在は9月の農作物収穫時期までの空白期間であり、景気はやや悪い。
▲	百貨店 (売場主任)	来客数の動き	・来客数の推移は頭打ち又はややマイナスでの動きとなっている。動き始めていたリベンジ需要にも陰りがみえ始めているなど、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が出始めている。
▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・3月以降、新型コロナウイルス感染症発生前に近い水準の売上を確保できていたが、新型コロナウイルス感染症の第7波がみられるようになってから、週末を中心に来客数が減少している。売上も前年並みにとどまる日が続いている。
▲	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・夏のビジネスアイテムがようやく稼働したことで、7月の売上は2019年並みの水準まであと一歩となったが、新型コロナウイルス感染症に関する報道が連日盛んに行われていることから、客足がどんどん遠ざかっている。月後半は閑散としていた。
▲	家電量販店 (店員)	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えるのに伴って、来客数の動きが鈍くなり始めている。ただ、夏物家電の全体の売行きは、前年並みにとどまった。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新車登録台数が前年の80%以下になるなど、出荷予定も見通せない状況が続いている。平常時の出荷状況に戻るまで、自動車業界の景気は横ばい又は下がることになる。
▲	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・商材の値上がり傾向が続いているため、買い控えがみられる。今後も不安定な状況が考えられるため、景気が一層悪くなることも懸念される。
▲	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前を基準とすると、7月の売上は5割を超える程度水準にとどまるなど、経営的にぎりぎりな状況は変わらない。7月前半は良かったが、新規感染者数の急増もあって、第4週以降は責任のある立場のような年配の男性客が少なくなった。知人のSNSにおいても外食の記事投稿が少なくなっている。また、当店は観光客の利用は少なく、地元客が中心であるが、自主対策の緩い客もみられ、接客に力が入らないことも生じている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・7月の会社全体での売上は前年比プラス20%であったが、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年と比べるとマイナス30%であった。タクシー1台当たりの売上は、ほぼ新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っているが、乗務員不足の影響で会社全体の売上は大きなマイナスとなっている。また、ここ最近の新型コロナウイルス新規感染者数の急増に伴って、夜の人出が減っており、タクシーの売上も少しずつ落ち込み始めている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第6波の後は売上が回復基調にあったが、第7波に入った途端、行動制限が掛かっているにもかかわらず繁華街の人出が激減した。
▲	通信会社 (企画担当)	単価の動き	・円安の影響で人気の通信機器が7月下旬から大幅値上げとなり、それに伴い販売量が激減している。一方、格安機種については競合他社に流れる傾向がみられ、客の流出が増えている。

	▲	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・ウッドショックの影響に加えて、その他の資材なども円安の影響で価格が上昇している。原価高に伴ってコストアップになっていることで、住宅も非住宅建築も計画の見直しや様子見の動きが出始めている。
	×	スーパー(従業員)	来客数の動き	・来客数の減少が継続している。食料品の値上がりやエネルギー価格の上昇によって、買い控え傾向も顕著になっている。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・期待していた全国旅行支援が実施されなかったこともあり、道外からの予約客が増加しなかった。また、新規感染者数の急増により出控えが発生していることで、夏のシーズンの利用客も低調に推移している。コスト上昇やインフレ進行による影響もあり、景気は確実に悪くなっている。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・7月の販売量は前年比プラス6%であったが、3か月前の4月の販売量は前年比マイナス17%であったことから、景気は良くなっている。
(北海道)	○	建設業(役員)	受注量や販売量 の動き	・技術員の現場配置はフル稼働状態が続き、天候も安定していることから、各工事の進捗が順調であり、計画を上回る出来高が計上できている。新型コロナウイルス感染症の第7波が始まっているが、経済活動の正常化へ向けた動きは変わっておらず、民間建築の見積り、引き合いが増えている。
	○	通信業(営業担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症に対する一定の警戒感には消えていないが、これまでの流行期と違い、経済活動を継続する動きが強まっていることから、企業活動を巡る需要の堅調さと投資意欲の継続がみられる。
	○	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増大しているが、国などによる直接的な行動制限もないことから、建築や不動産関連の営業を通常どおりに行うことができている。季節要因もあって、今のところ景気は緩やかに上向いている。
	○	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注量や販売量 の動き	・当管内においては、民間工事や整備新幹線延伸工事、駅周辺の再開発関連など、工事が豊富である。
	○	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・5～6月の受注量は前年並みの傾向が続いていたが、7月に入り微増傾向となっている。地方の公共工事、首都圏の民間工事が活発になっているためとみられる。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・受注量にはほとんど変化がみられない状況である。
	□	家具製造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が懸念される。
	□	輸送業(支店長)	受注量や販売量 の動き	・現在は新型コロナウイルス感染症の第7波の初期段階とみられ、当社周辺の景気についても、今のところ変化はみられない。
	□	金融業(従業員)	取引先の様子	・個人消費は人の動きが活発化し、サービス消費を中心に持ち直しの動きがみられる一方で、物価上昇の影響で食料品などでは節約志向が強まっている。住宅投資は資材価格が上昇していることで減少しており、公共投資も弱含みである。このため、道内景気は持ち直しの動きが一服し、3か月前と変わらない状況にある。
	□	司法書士	取引先の様子	・3年ぶりの行動規制のない夏ということもあって、観光客の姿を多く目にするようになったが、物価が上昇しているため、一般の人にとって景気が良くなっているとの感覚はない。建物の新築は関連する業種が多いことから、建築数が増加すると経済も回るようになるが、今のところそうした動きもみられない。景気は横ばいで推移している。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・案件の受注などで実績を積み上げることができており、大きく下向くことはないと思われる。ただ、ベース商材である消耗品関連の動きが例年と比べて3割ほど少ないため、安心できない状況にある。
	▲	建設業(従業員)	受注量や販売量 の動き	・案件数が減っている。民間、官庁のいずれも半減している。価格高騰のため、案件の見送りが増えており、景気が良くなる雰囲気を感じられない。

	▲	その他サービス業 [建設機械リース] (支店長)	取引先の様子	・供給不足やコスト高などによって、厳しい状況が続いている。現況に耐え切れず、破綻するのではないかと懸念される取引先が増えていることもマイナスである。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・建築土木、農畜産関連の一次産業とそれに関わる二次加工業の求人数は増加傾向にある。ただ、飲食関連が苦戦していることもあって、全体の求人数に伸びがみられない。
	○	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・6月の新規求職者数が前年から10.4%減少した一方で、新規求人数は前年と同数を維持している。今後への懸念材料はあるものの、業況が堅調とする企業を中心に求人が堅調に推移している。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における6月の有効求人倍率は0.90倍であり、3か月前との比較では0.01ポイント下回った。
	○	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・企業がコロナ禍に慣れたこともあって、採用活動も2019年までの状況に戻っている。2021年は業種によって新卒採用意欲に大きな開きが見られたが、現在はおおむね回復するなど、景気は回復している。未内定の学生の動きも活発なままである。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響も受けず、堅調に推移している。特に営業職の求人数が増えている。増員の求人も堅調であり、欠員の求人も増えてきている。景気が良くなっていることで、転職する動きもみられる。
	□	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・季節要因による業種の動きを除けば、全体的な求人の動きは春と大きく変わっていない。
	□	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・当地の基幹産業の1つである建設業界からの掲載申込みが前年の85%にとどまっている。
	▲	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・バスやタクシーなどの旅客運送に加えて、飲食、宿泊、小売などの観光関連業種が前年を上回って好調に推移している。ただ、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で様子見ムードが出ており、少しプレーキが掛かっている。また、首都圏での人材採用が厳しくなっているせいか、北海道に拠点を移したり、北海道での採用を拡大する企業が増えている。
	▲	職業安定所 (職員)	それ以外	・求人数は増加傾向にあるものの、人手不足の産業に偏りがあり、充足は厳しい状況にある。また、宿泊業などは新型コロナウイルス発生前の状況に戻っていない。燃料費高騰などの影響がどの程度出てくるのかも不透明である。
	×	—	—	—